

和地ひとみレポート No.355

新型コロナウイルスの影響、そして来年度とその先は・・・

東大和市の財政状況は



■市の財政規模は10年前より2割アップ

…国も東京都も、そして東大和市も新型コロナウイルスの影響で財政状況が悪化しています。東大和市においては、このような不測の事態が起こらなくても、ゆとりのある財政状況ではありませんでしたが、先を見通して、努力や工夫を重ねて今まで市政運営は行われていました。しかし、今回のコロナ関連の支出増の影響後についての今後の見通しは、以前とは大きく変わっています。…まず、今までの東大和市の決算額＝財政規模は、10年前より約22%も拡大(増額)。これは、時代の変化とともに増加した様々なニーズに対応する事業を展開してきたとともに、公共施設の老朽化対策などの時期を迎えていること等、待ったなしの状況が増加していることが要因です。

【東大和市の決算額:10年前との比較】

◇H21年(2009年)＝約253億2,019万円

↓(+約55億7,256万円＝22%の増加)

◇H30年(2018年)＝約308億9,275万円

【10年の間に取り組んだ主な取組みと費用の増大規模】

1:民生費:10年間で約43億円増加

①障害福祉費

H21年＝約13億9,551万円

H30年＝約26億6,910万円(+約12億7,359万円)

→“総合福祉センターは～とふる”の開設により、生活介護や障害者就労支援の充実などを実施。障害者自立支援給付事業におけるサービス利用者の人数はH21年度末:のべ690人からH30年度末:のべ1,810人と1,120人増加。

②児童福祉費

H21年＝約46億8,521万円

H30年＝約67億8,454万円(+約20億9,933万円)

→保育施設の定員拡大や小規模保育事業の充実、保育コンシェルジュによる保育相談、病児・病後児保育事業、新たな学童保育所の建設などを実施。保育施設の定員数はH21年度末:1,243人からH30年度末:1,906人と663人拡大した。

③生活保護費

H21年＝約24億9,797万円

H30年＝約34億3,873万円(+約9億4,076万円)

→生活困窮者の自立支援を行う“そえる”を開設したが、生活保護援護事業における被保険者数はH21年度末:1,553人からH30年度末:1,918人と365人増加。

2:教育費:10年間で約3億円増加

①教育指導費(学習面などの取組み)

H21年＝約2億2,955万円

H30年＝約3億378万円(+約7,423万円)

→ティームティーチャー、学習支援員、スクールソーシャルワーカーや地域未来塾事業支援員を配置。

②小中学校環境整備事業費

H21年＝約1億9,937万円

H30年＝約4億6,493万円(+約2億6,556万円)

→市内全校の校舎及び体育館の耐震補強工事、普通教室と特別教室への空調設備の設置、新学校給食センターの建設、通学路の防犯カメラの設置など。

…上記の他にも、この10年間には中央公民館や市役所の本庁舎などの耐震補強工事も実施しており、財政規模の増大につながっています。そして、今後も他の公共施設の老朽化対策も必要となってくるため、今までの方向性のままで市政運営を続ければ、財政規模はさらに大きくなっていきます。

■市の財源の内訳は

…東大和市の事業に充てる財源(歳入＝入ってくるお金)について考えると、個人や法人が納める市税を思い浮かべると思いますが、東大和市の場合、収入全体に占める市税の割合は低く、10年前は全体の47.6%を占めていた市税の割合はH30年には39.5%と下がっています。

【東大和市の全体の収入に占める市税の額と割合】

◇H21年＝約127億3,400万円(全体の47.6%)

◇H30年＝約127億9,000万円(全体の39.5%)

…市では今回の新型コロナウイルスの影響がどのように市税収入に影響するかについて、H20年のリーマンショック後の市税収入の減少の数字を使用して以下のとおり試算しています。

【市民税所得割】

H20年度決算:53億5,254万円

H21年度決算:52億2,357万円(H20比:マイナス2.4%)

H22年度決算:48億5,077万円(H20比:マイナス9.4%)

今年度当初予算額が同じように9.4%マイナスになる場合
49億3,825万円(当初予算)×9.4%＝4億6,420万円
市民所得税は減収となる。

(裏面に続く)

【市民税法人税割】

H20 年度決算:4 億 4,205 万円

H21 年度決算:3 億 1,788 万円(H20 比:マイナス 28.1%)

H22 年度決算:3 億 3,963 万円(H20 比:マイナス 23.2%)

今年度当初予算額が同じように 23.2%マイナスになる場合
2 億 9,376 万円(当初予算)×28.1%=8,255 万円
市民法人税割が減収となる。

…前述のとおり、東大和市の財源に占める市税の割合は低いので、市は国や東京都から交付される財源を頼りにしているところが大きいのですが、その都税連動の交付金や国の地方交付税についても減額となることが予想されるため、これらの影響により、市は計画している事業を実施するために、借入を増加しなければならないのではないかと見込んでいます。

■貯金は？

…様々な新型コロナウイルス感染症対策についての各都道府県の対応に関する報道をよく目にしましたが、その際に、首都圏の様々な県知事からは「東京都はお金があるからできるが…」という発言が出ていました。

…その、お金があるとされる東京都の財政調整基金(≒都の普通預金)も、今回の新型コロナウイルス感染症関連の緊急対策で急減しており、今年度は17年ぶりに1,000億円を割る見通しです。都の見通しでは、今年度の財政調整基金の残高見通しは807億円になるとのことで、前年度残高に比べると9割減。

…都全体で考えるとイメージが湧きづらいので、財政調整基金の前年度末の残高9,345億円と、現時点での今年度末の残高見込み807億円を単純に4月1日現在の都民13,982,622人で割った都民一人当たりの額を見てみると、前年度末は約67,000円/人だったものが1年後の今年度末には約5,700円/人になるということがわかります。このような状況に加えて、東京都も東大和市と同様に来年度の税収は下がると思うので、東大和市への都からの交付金も減少するとみてよいと思います。

…コロナ感染症関連の取組みの財源の多くは国や東京都から出ていますが、東大和市もこれらに加え、市の財政調整基金(≒市の普通預金)を取崩しています。

…年度当初、約19億7,300万円あった市の財政調整基金ですが、6月の市議会定例会に出された補正予算で合計16億7,591万円取崩しているため、残高は2億9,796万円と大幅に減少。このほかに今回の新型コロナウイルス感染症緊急対策特別交付金を貯金している分が約1億9,463万円ありますが、このお金の使途は限定されています。

■来年度の当初予算は？

…市は毎年、当初予算を立てますが、その方法は“歳入＝入ってくるお金”と“やるべき事業の費用＝出ていく

お金”を調整していくという作業です。このような調整をしながらも、ここ近年の当初予算を立てるために、東大和市では財政調整基金を取崩さないとならない状況＝どんなに調整してもやるべき事業に必要なお金の合計より入ってくるお金の合計が少ないから貯金を取り崩さなければならないという状況です。その当初予算での財政調整基金の取崩し額は、全体の予算の5%前後、約10億円というのが毎年の傾向です。

…東大和市では財政調整基金に決算で出た剰余金(決算後に余ったお金)の約50%を積み増すということを行っています。9月には昨年度の決算が出ますが、そこで出た剰余金の半分程度を財政調整基金に積み増し、さらに、今年度、新型コロナウイルス感染症の影響で中止になった行事や事業などの予算を積み増した後、どのような残高になるか。財政調整基金は、一般的に標準財政規模(標準的な状態で通常収入されると見込まれる一般財源の規模)の10%~20%が適正とされており、東大和市の場合、10%とみても約16億円の残高がないと適正とはなりません。

…来年度の当初予算を組む際に、例年の傾向通り約10億円を当初予算のために取崩し、かつ、16億円の残高にするためには、単純に考えれば現時点の残高に23億円の積み増しが必要ですが、これは、現実的には困難な額だと思っています。

■今後は

…先日、国の第2次補正予算が成立し、東大和市へは新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金として以下の限度額が示されました。

・家賃支援を含む事業継続や雇用維持等への対応分

…3億396万5千円

・「新しい生活様式」を踏まえた地域経済の活性化等への対応分

…3億798万円

…内閣府はこの交付金の活用例を示すとともに「商品券など一時的な対応に活用するより、将来的に活きる使い方をしてほしい」という趣旨の呼びかけも出しています。東大和市も、これらの例や趣旨を踏まえ、実施計画を作成し、国に申請してこの交付金を得ることになります。そして、このような交付金なども活用し、“今やるべき対策”と“通常行わなければならない事業”と“将来に活きる事業”を、まさに懐具合を考えて、取捨選択していくことに。

…市では、このような状況を鑑み「実施計画における主要事業の執行停止」、「必要に応じた事業の縮小、休止、廃止」、「公共施設等の適正配置と総量の縮減」、「経常的経費の縮減」を検討しなければならないと考えています。

…昨年は、東大和市でも台風による土砂崩れが発生しました。今後の災害に備える意味でも、貯金を一定程度維持し、今まで以上に効果的、効率的に行財政運営を行うことが求められています。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。コロナ禍において、駅頭での配布は一時、控えております。

【プロフィール】「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」

1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。『学校』の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク(※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換)に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。月刊誌『日経WOMAN』のベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011年4月、初当選。現在3期目。顔の見える議員として、日々奮闘中。



東大和市 市議会議員

和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP: <http://www.wachi1103.jp>

✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546

〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102